



# 図書館便り



白嶺中学校図書館 2025.6月号

雨降りの日が続き、肌寒い日もありますね。気温の変化で体調を崩さないよう気付けましょう。図書館では、雨をテーマにした展示もしています。

 外でのびのびと活動できない日は、学校や家で、読書でゆったりした時間を過ごしてみるのもいいですね。



## おはなし給食

『うどんのうーやん』岡田よしたか作(ブロンズ新社)

人手不足のうどん屋で、うどんのうーやんが自ら出前に出発!  
関西弁での語り口調も、ユニークです。



## 青少年読書感想文 コンクール 中学校の部 課題図書

913わたしは食べるのが下手

天川栄人//作 小峰書店

少食で食べるのが遅い葵は、食事の時間が苦手。とくに給食は…。「小林さんさ、たぶん君、会食恐怖症だわ」無理に油淋鶏を飲みこんで気持ちが悪くなった葵は、保健室でクラスの問題児、咲子にそう言われる。実は咲子も、食にかかわるある悩みを抱えていた。そんな二人は、新任のイケメン栄養教諭に焚きつけられて、給食改革に乗り出すことに…。わたしたちが望む給食って、いったいどんなだろう?(e-hon 要旨より)

933 ドスラムに水は流れない

ヴァルシャ・バジャージ//著 あすなろ書房  
人は、水なしでは生きていけない。  
でも、ほんとうに必要なのはそれだけじゃない。家族、友情、シスター<sup>フッド</sup>、大人になるということ…  
手に汗にぎる!青春ストーリー。  
(e-hon 要旨より)

289 鳥居きみ子

家族とフィールドワークを進めた人類学者  
竹内絢子//著 くもん出版  
夫・龍蔵や家族とともに、まるで探検するようなフィールドワーク(野外調査)を進めた鳥居きみ子。人類学のなかでも、昔から伝わる生活・風習・伝説・歌などを調べる民族学を切り開きました。  
(e-hon 要旨より抜粋)

# ☆新刊案内☆

375 知図を描こう!

あるいはあつめておもしろがる  
市川 力//著 岩波書店

「知図」とは、自分の足で歩いて気になったモノやコトを自由に描く自分だけのオリジナルな好奇心の記録。探究授業や地域活動など様々な場で実践されています。知りたい、学びたいという情熱が呼び起こされる知図づくりの魅力を紹介します。

(e-hon 要旨より)

S410 公式は覚えないといけないの?

矢崎 成俊//著 筑摩書房  
数学は何に活かせるの?数学が苦手だと感じる  
人におすすめの一冊。

404 科学はこのままでいいのかな

中村 桂子//著 筑摩書房  
基本を変えずに、しかし驚くほどの多様  
さを生み出して38億年続いてきた「進  
化」を軸に、生きもの目線で私たちの未  
来を考えよう。  
(e-hon 要旨より抜粋)

596 常識やぶりのアイデアおやつ

syun cooking//著 大和書房  
オープンも火も使わないケーキレシピ、  
材料ふたつでできる絶品アイスなど  
簡単おやつが勢ぞろい!

611 食べものが足りない!

食料危機問題がわかる本  
井出 留美//著 旬報社

724 絵画を見る、絵画をなおす

保存修復の世界  
田口 かおり//著 偕成社  
修復家は、つぎのだれかにバトンを  
わたすリレー走者のようなもの。され  
ばそれでいい?とけて、  
燃えて、きえてしまうアートをどうする?  
悩みはつきません!  
(e-hon 要旨より)

913 人魚が逃げた

青山 美智子//著 PHP研究所  
☆本屋大賞5位☆

SNS上で「人魚が逃げた」という言葉  
がトレンド入りした。どうやら「王子」と  
名乗る謎の青年が銀座の街をさまよい  
歩き、「僕の人魚が、いなくなってしま  
て…逃げたんだ。この場所に」と語って  
いるらしい。(中略) そもそも人魚はいる  
のか、いないのか…

(紀伊國屋書店ウェブサイトより)

913 香君 上・下

上橋 菜穂子//著 文藝春秋  
人並外れた嗅覚を持ち、植物や昆虫の  
声を香りで聞く少女アイシャ。旧藩王の  
末裔ゆえ、命を狙われ、ウマール帝国へ  
行くことになる。遙か昔、神郷よりもたら  
されたというオアレ稻によって繁栄を極  
めるこの国には、香りで万象を知る“香  
君”という活神がいた。

(e-hon 要旨より)

913 spring

恩田 陸//著 筑摩書房

☆本屋大賞6位☆  
彼は求める。舞台の神を。憎しみと錯覚するほど  
に。構想、執筆10年、待望のバレエ小説。  
(e-hon 要旨より)

913 セントエルモの光

久閑野高校天文部の、春と夏

天川 栄人//著 講談社  
廃部寸前の天文学部を存続させるため  
に奮闘する、高1の安斎えるも。その中  
で元来の利発さを取り戻していく。  
(e-hon 要旨より)

913 一線の湖

砥上 裕将//著 講談社

水墨画を通して主人公の成長をえがく。  
『線は、僕を描く』の続編。

913 財布は踊る

原田 ひ香//著 新潮社